

「役員だより」 2021 年 5 月号

雑草考～クズをめぐる～

コロナ禍もあって自宅にいる時間が一層多くなって来ました。運動不足の解消と医師の指示によるリハビリもかねて、朝夕と散歩の機会が増えてきました。歩いているうちに気が付いたことの一つは、恥ずかしながら、“土木屋”のくせに、路上の樹木やろばたに繁茂する雑草は、クズ（葛、以下、“クズ”と称することにします）を除きますと、ほとんど名前が出てこないことです。

さて、クズにつきましては、少し経緯があります。数年前まで、NEXCO 東日本(株)と茨城大学（のちに、筑波大学も参加）の間で開催されました情報交換のための「茨城地域技術懇談会」の会長を9年間勤めました（現在は、茨城大学・小柳武和・名誉教授が会長）。辞任後の2017年のある時、NEXCO 東日本・水戸工事事務所・鈴木雄吾所長（当時、現・技術本部技術環境部環境課長）から連絡があり、「高速道路の走行安全性や環境維持の立場からクズの繁茂に困っているが、対処法についてなにかいい知恵はないか？」という相談がありました。筆者は植物については、前述のように、ほとんど素人同然でしたので、当時勤務していました茨城大学地球変動適応科学研究機関（ICAS、現在は、地球・地域環境共創機構（GLEC）と名称変更）の教員スタッフに、「関心のある方はおられますか？」と電子メールで尋ねました。すると、すぐに、理学部の及川真平准教授からメールがあり、研究室に連れて、当時研究室をシェアしていました堅田元喜講師（現、キャンングローバル戦略研究所・主任研究員）も加わってお話をしました。あとでわかったことですが、及川准教授はそのときは、“クズはむつかしいので、そんな要請は断った方がいい”と助言しようと思っていたとのことでした。ところが、豈図らんや、いろいろ話しているうちに、堅田講師のサポートを条件に、「やってみますか」ということになってしまいました。そこから、若手の教員を中心に学部（理学部、農学部、工学部）や分野（植物生態学、移動現象論、土壌学、景観工学、地盤工学）をまたがった、(株)NEXCO 東日本と茨城大学の間での共同研究プロジェクトが始まり、今日に至っていますが、仕掛け人の筆者は、「頑張っ！新しい学問領域を作っ！」などと、愚にもつかない、無責任なことを求める傍観者になっています。

本件には、思いがけない付帯事項が付いてきて、(株)NEXCO 東日本から理工学大学院博士後期課程への進学希望者が出てこられて、現在研究に着手されています。指導教員は、前述の理学部・及川真平准教授（専門は、植物生態学）です。このプロジェクトと社会人ドクターの研究を通じて、「グリーンインフラとグレーインフラの融合」の事例に繋がらないか、とひそかに期待をしているところです。

なお、及川准教授の語る“クズのお話”は、LRRI にとっても傾聴に値する内容ですので、一度、会員の皆さんとご一緒にお聞きする機会を持ちたいと思っています。乞うご期待！

密やかに 茂みの中に 咲きたるぞ

雑草ととも 同じ生命^{いきもの}

(代表理事 安原一哉)